

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.85

2006/12/16

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 南部湿原南端斜面保全作業実施



南部湿原で保全作業中の参加者 (06/12/16)

12月16日、日本年最後の保全作業を実施しました。実施したい保全作業は山積みされているのだが、今回は次の3つを行いました。

懸案の南部湿原南端斜面の整備（湿原の展望をよくするためと昆虫の食草・吸蜜植物の分布を広げるため、茂りすぎた低木を除去）と、

観察コース沿いで間伐・枝打ちされたものを除去（里山植物の分布拡大をすすめるため）、湿原排出流路の砂防箇所の補強作

業。加えて「やまかど・森の楽舎」の大掃除。

このうち南部湿原の作業では、数年前から問題になっている湿原沿いの観察路に刈り取った低木を集積し、コースが通れないようにしました。これまで余

りにも湿原の側を大勢が歩くことによって、湿原へ土砂が流入するのを防ぐためです。今後は尾根沿いの観察コースのみとなります。の作業は女性班に担当していただきましたが、左の写真の上下を比べていただいたら百聞は一見にしかずです。実に見事に整理していただきました。来春以降次々と里山植物が再生してくれるはずですよ。

今冬の初雪は12月3日でした。昨年は12月4日でそれ



整理前の観察コース沿いの様子 (06/12/12)



整理作業中の女性班 (06/12/16)



整理された観察コース沿いの植林地 (06/12/16) が根雪となりましたが、今年は20日現在湿原には積雪はありません。11月南部湿原で観察会中に会員が見た子熊は、この初雪直後にも森を歩いたようです。会員が足跡を確認しました。熊だけでなく最近森で見たサルの糞にも多くの柿の種が含まれていました。今や森の動物は里の木の实が頼りのようです。



初雪の南部湿原 (06/12/03)





山門集落の子熊がいた柿の木 (06/11/27)  
積雪が進めば一段と厳しくなるはずです。

山門集落で見た子熊は左の柿を目的にきたものです。既報の通り今年は森のあらゆる木々の実が不作で、動物は大変です。イノシシも例外ではなく、森中をかき回しています。これから



イノシシの餌探し跡 (06/12/16)



琵琶湖博物館の珪藻調査 (06/11/23)

今年も多くの研究者や団体が調査に訪れました。これらの調査には、保全上の問題から必ず会員が同行することになっています。また森や湿原の生物の状態を見て、日程の変更等をお願いしています。また研究成果については、本会にも提供していただくようにしています。こうした研究に協力しつつ、保全がスムーズにできればと考えています。

11月23日には、本年2回目の琵琶湖博物館「たんさいぼう」の皆さんによる「珪藻調査」が行われました。

また滋賀大教育学部の学生が「四季の森」の土石流調査を始めました。どのような土石流がいつ発生したのかが明らかになれば、本会としてもガイド等に役立つとともに現地



土石流堆積物の表面の試料採取 (06/11/25)



PHOTO BY ITO

土石流地域の測量下見 (06/12/13)

会社の方がご協力頂けることになりました。過日その下見も終了し、雪解けを待って測量することになっています。他方で土石流で埋没した埋没林の年代は、「2006年おうみ NPO 活動基金」の助成で現在年代測定を進めています。年明けには結果が出てくると思います。

11月の「屋台村」出展に続いて、12月3・5日琵琶湖博物館で開催された『滋賀県民環境学習のつどい』のポスセッションにも参加いたしました。展示内容は、主として今年度の保全事業の成果を報告する内容といたしました。



滋賀県民環境学習のつどい展示 (06/12/05)



カヤネズミの巣 ??? (06/12/12)

「人の手が加わった蘇った草や花の生命力がみれてうれしかった」「ブナの種の保存をしているのを初めて知った」「凄い保全活動をされていることを知り感動しました」等々のコメントを頂きました。北部湿原復元作業中に左の画像のような巣を発見しました。カヤネズミの可能性もありますが、今後の調査が必要。